

## 【南海トラフの巨大地震はいま……「中間とりまとめ」を公表】

### ■ 震源域の面積はこれまでの約2倍、地震規模はM9.0(暫定値)

本紙は創刊1周年の2011年9月1日号(第25号)で、「試される“西日本大震災”への想像力」と題し、「南海トラフの巨大地震モデル検討会」(座長:阿部勝征・東京大学名誉教授)について特別記事を掲載した(文末に同記事へのリンク)。

東日本大震災を引き起こした「2011年東北地方太平洋沖地震」では、震源域が岩手県沖から茨城県沖まで広範囲にわたったことでM9.0の巨大地震となり、大津波による大災害が引き起こされた。個別の領域については地震動や津波評価がなされていたが、これら領域が連動して発生する地震は“想定の外”だった。

いっぽう、東海地震、東南海・南海地震について国の防災対策はこれまで東海地震対策に集中してきたが、その想定地震モデルの根拠は、わずか過去300年ほどの間に発生した5つの地震(1707年宝永地震、1854年安政東海地震、1854年安政南海地震、1944年昭和東南海地震、1946年昭和南海地震)で、それ以前の“巨大地震の痕跡”は考慮に入れていなかった。しかし近年、津波堆積物調査研究が進むなかで東海・東南海・南海地震3連動への懸念が高まっていた折に東日本大震災が起り、一挙に南海トラフ連動地震への危機感が高まった。

「南海トラフの巨大地震モデル検討会」は昨年末の12月27日、南海トラフの巨大地震モデルの「想定震源域」、「想定津波波源域」設定の考え方や最終とりまとめに向けた検討内容について「中間とりまとめ」を公表した――

「中間とりまとめ」は、過去に起こった地震の震度分布・津波高に関する調査・研究成果から、「駿河湾から九州にかけての南海トラフの領域では、M8を超える巨大な海溝型の地震(プレート境界地震)が、おおむね100～150年の間隔で繰り返し発生している」(684年天武地震[白鳳地震とも]から1946年昭和南海地震までの11地震)とし、こうした地震の発生履歴、過去地震の震度分布・津波高等について整理、「現時点の資料では過去数千年間に発生した地震・津波を再現しても、それが今後発生する可能性がある最大クラスの地震・津波とは限らない」としている。

また、最近の科学的知見をもとに想定震源域・想定津波波源域をとりまとめて、想定しうる最大の震源域を富士川河口断層帯の北端付近(静岡県)から九州の日向灘南西方向までと設定。新たな震源域の面積は現行の約2倍(約11万平方km。東北地方太平洋沖地震は約10万平方km)となり、地震規模は暫定値としてマグニチュード(M)9.0とした。

地震学的に考えられる「最大クラスの想定震源域・想定津波波源域」として、

- ▼内陸側の領域端は、プレート深さ約30kmよりやや深い部分まで拡大
- ▼南西側の領域端は、日向灘よりもさらに南西方向に拡大
- ▼想定津波波源域は、津波地震(地震動が比較的小さくても大きな津波を起こす地震)を考慮して深さ10kmより浅い部分も対象

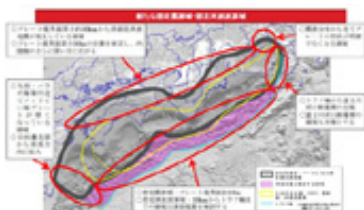
これを具体的にみると次のようになる――

- 1) 浅い側(トラフ軸側): 想定震源域はプレート境界の深さ約10kmの等深線にあわせ、想定津波波源域についてはプレート境界面の深さ10kmからトラフ軸までの領域
- 2) 深い側(内陸側): 想定震源域・想定津波波源域はプレート境界面の約30kmからそれよりもやや深いと考えられる深部低周波地震が発生している領域(日向灘の領域については、別途、深さ約40kmまでの領域)
- 3) 東側(駿河湾側): 「活断層が東海地震と連動して活動する可能性がある」(政府地震調査委員会)ことから、想定震源域・想定津波波源域は、駿河湾における南海トラフのトラフ軸から富士川河口断層帯の北端までの領域
- 4) 北東側(静岡・山梨県境付近): 北東側(静岡・山梨県境付近)の破壊領域端にあたる富士川河口断層帯の北端から北西側の領域は、地震活動が不活発であることから、想定震源域・想定津波波源域はプレートの形状が明瞭でなくなる付近まで
- 5) 南西側(日向灘側): 想定震源域・想定津波波源域は、九州・パラオ海嶺の北側付近でフィリピン海プレートが厚くなっている領域

検討会は本年3月～4月に「最終とりまとめ」を行い、最大クラスの震度分布・津波高等の推計結果を公表。並行的に東日本大震災の被害を反映した被害想定手法を検討し本年6月ごろに「被害想定(直接的被害)推計」、秋ごろに「被害想定(経済被害等)推計」を公表する。これらに加え、東日本大震災の教訓を整理して本年末ごろに「対策の骨子」を明らかにし、「対策大綱」、「活動要領」等の作成に結びつける。なお、長周期地震動についても引き続き同検討会で検討を進める可能性もある。西日本の防災対策の大きな転換を迫る同検討会の動向に注目したい。

>>>[本紙第25号「西日本大震災～南海トラフの巨大地震モデル検討会～」](#)

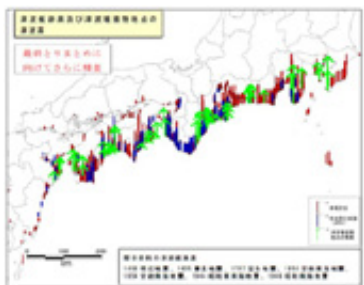
>>>[南海トラフの巨大地震モデル検討会](#)



「南海トラフの巨大地震モデル検討会」の「中間とりまとめ」(P.50)より「新たな想定震源域・想定津波波源域」(図版をクリックで元資料にリンク)



「南海トラフの巨大地震モデル検討会」の「中間とりまとめ」(P.33)より「中央防災会議(2003)の震度分布に新たに収集した資料の震度を加えた過去地震の震度分布図」(図版をクリックで元資料にリンク)



「南海トラフの巨大地震モデル検討会」の「中間とりまとめ」(P.34)より「過去地震の津波高(の図)に、津波堆積物調査地点の標高に2mの高さを便宜的に加えたものを追加(した図)」(図版をクリックで元資料にリンク)